

季刊

AMDA Journal

多様性の共存

2008年5月1日 VOL.31 No.2 定価600円
 発行/AMDA 〒701-1202 岡山市横津310-1
 TEL 086-284-7730 FAX 086-284-8959
 E-mail:member@amda.or.jp

2008.5
 SPRING

春

国民参加型相互扶助人道支援外交

緊急救援センター 救える命があればどこへでも

ネパール・ブータン難民キャンプ火災 緊急医療支援活動

特定非営利活動法人アマダ (AMDA)
<http://www.amda.or.jp/>
 特定非営利活動法人AMDA 社会開発機構
<http://www.amda-minds.org/>
 特定非営利活動法人AMDA 国際医療情報センター
<http://homepage3.nifty.com/amdack/>

2008年3月1日18時30分、ネパール国ジャバ郡にある7つのブータン難民キャンプの一つ、ゴールダップ・キャンプ(人口約9,700人)で火災が発生しました。竹と藁葺きで作られた家屋1,512戸の95%が焼失し、被災者は財産のほとんどを失いました。



ゴールダップ難民キャンプ



焼け落ちた住居。鉄筋コンクリートの柱だけが焼け残り、屋根と壁は全て焼失



テントで寄り添う避難民の家族

幸い死者ゼロ人、負傷者7人と人的被害は軽微でしたが、9,000人以上がキャンプはずれの森林地域でテント生活を強いられています。

AMDA ネパール支部はブータン難民キャンプにおける一次保健医療の提供をUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)から委託されており、各キャンプに診療所を開設しています。出火後、直ちに緊急救援活動を開始し、毛布と衣料各約200着を被災者に配布しました。

3月5日、AMDA本部は館野和之調整員をゴールダップに派遣。3月7日に、避難地の森林地域に仮設救護所を設置しました。この救護所を拠点にして3チームが巡回診療を展開しています。また、蚊の発生を防ぐため、難民ボランティアと協力して殺

虫剤の粉霧を行いました。

この救援活動には医師2人、医療アシスタント13人、本部調整員1人、ゴールダップ難民キャンプからのボランティア・スタッフ10人、難民ボランティア5人の計31人が参加しました。

避難している乳幼児を抱えた母親が、「身近に医師や看護師がいると、本当に心強いです。元々2カ月に1度保健センターで保健指導を受けていましたし」と述べているように、安定した医療サービスが受けられることは、不安を取り除くことにつながり、キャンプ内では大きな混乱は発生していません。AMDA ネパール支部のナーマル医師は、「避難地は水はけが悪く、6月に始まる雨期に蚊による感染症の増加が心配」と懸念を話しています。(2P下段に関連資料)



東側の森にテントを張り、約9,000人が仮住まいをしています。煙は夕方の炊煙



キャンプ内31ヵ所ある井戸の水質は問題ありませんが、避難場所より離れているので水汲みは重労働です



ゴールダップ難民キャンプのAMDA診療所。奥の建物は母子保健センター



ゴールダップ難民キャンプにおける保健センター-外来病棟での診療風景

地球社会とともに生きる「良き企業市民」として

— AMDA と日本郵船グループとのかかわり —
日本郵船株式会社 CSR 推進グループ
コーポレート・シティズンシップ・オフィス

当社グループは日頃より、地球社会とともに生きる「良き企業市民」として、主体的に社会の課題に取り組み、その活動を通してすべてのステークホルダーにとっての企業価値の向上を目指す、という基本理念に基づき、社会貢献活動に取り組んでいます。当社とAMDAとのかかわりは、2006年5月に発生したインドネシア・ジャワ島地震の際に当社グループ役員・社員有志から集まった義援金で緊急医療支援活動に協力したことから始まりました。その後も、フィリピン・ルソン島台風、ペルー地震、バングラデシュ・サイクロンなどの災害に対し、社内で集まった義援金を被災地での支援活動



「2007年新年懇親会」
AMDAブース

に役立てて頂きました。

また、その他にも、実際に現地で活動したAMDAスタッフの方々に社内に招き、報告会を開催しました。報告会に参加した当社グループ社員からは、「実際の支援の様子をDVDや写真で見ることができたので、被災地での活動の重要性を実感できた」「かかわっている人たちの誠実さが伝わってきて心を打たれた」などの感想が寄せられました。さらに、報道関係者を招待した2007年新年懇親会では、AMDAスタッフの方々がパネル展示や映像を通して来場者に現地の貴重な情報を発信して下さいました。

今後も当社は、このような活動を通して、AMDAを応援していきたいと考えています。

おもいやり 地球市民のパスポート

— おかやまコープの国際協力支援活動 —
生活協同組合おかやまコープ

おかやまコープでは生協の社会的役割でもある社会貢献活動として、現在「AMDA」と「ユニセフ」の活動に協力や支援を行う国際協力支援活動を通して世界的な助け合いの精神を広げています。また、国内の災害に対して被災者を支援する活動、県内で大規模災害などが発生した場合、各市町村からの要請に応じて生活物資を供給する「災害時緊急物資協定」を結ぶなど、災害時における各自自治体との連携もすすんでいます。

20数年にわたるユニセフ協力活動では毎年寄せられるたくさんの募金がユニセフ協会を通じて、支援を必要とする子どもたちのために役立てられてきました。こうした積み重ねの中で組合員からAMDA支援を希望する熱心な声が多くあり、組合員の賛同を得て、2007年度より岡山で生まれたAMDAへの協力支援をさせていただくことになり現在に至っています。

昨年10月にはAMDAチャリティーコンサートを開催するとともに、AMDAとおかやまコープがよきパートナーとして岡山発国際貢献活動をより一層すすめていくことをお約束させていただき協定を結ばせていただきました。協定式には菅波理事長をお迎えし多くの組合員がお話しをお聞きしました。募金は、おかやまコープが設置した「AMDA基金」にプールしておき、緊急医療支援に赴かれる時に直ちに支援金を提出できるようにしています。これまで基金から、バングラデシュサイクロン、ネパール・ブータン難民キャンプ火災の活動などに対して支援金の協力をさせていただきました。また、別途に取り組みをすすめた新潟県中越沖地震緊急募金からもその一部を送らせていただきました。



協定式（右：おかやまコープ三橋幸夫理事長 左：菅波茂 AMDAグループ代表）



ネパール子ども病院

【AMDA ネパール支部】

27人の医師からなる執行部と、数百人が事業に直接携わる。事業対象地域は、ネパール東部、中西部、そ

の2地域をつなぐ幹線道路周辺。中心地はダマック、プトワール、ヘトウダで、ネパールにおける医療保健分野のニーズをカバーしています。

【AMDAがネパールで実施している事業】

1. 医療施設の運営：ジャパ郡ダマック市にあるAMDA病院、ルバンデヒ郡プトワール市にあるネパール子ども病院の運営。それぞれ1992年、1998年から事業を開始し、内科・外科・救急・検査室・薬局・病

棟などを備えた総合病院です。

2. ブータン難民のためのプライマリーヘルスケア
3. HIV/エイズ予防・性感染症ケア
4. 医療保健分野の人材育成：ダマックに、毎年120人の学生が学ぶ保健人材養成センターを設立。卒業後、政府の試験に合格すると准看護師、地域保健助士、臨床検査助士の資格取得が可能。日本のAMDA支援者の協力により奨学金も用意しています。

ボリビア東部洪水被害に対する支援活動

ボリビアでは、ラ・ニーニャ現象*の影響と見られる断続的な豪雨が昨年11月から続き、12月上旬には、同国東部を中心に甚大な洪水被害が発生し、翌年1月22日には大統領による「全国非常事態宣言」が、2月12日には「国家災害宣言」が発令される事態となりました。この水害による死者は75人、被災世帯は97,000戸(3月25日現在)。



マットレス、食料品等を贈呈



予防接種の実施

この災害に対して、AMDA本部は緊急医療救援活動を行うことを決定し、AMDAボリビア支部は、医師12、看護師6、ボランティア12人の計30人によるチームを編成し、2月23日に洪水被災地として政府に指定されているサンタクルス県クアトロ・カナダス村の避難地にて、診療活動と破傷風ワクチン接種、そしてマットレスや食料品を含む生活支援物資の配布を実施しました。また、3月12日には、サンタクルスの社会計画長官を尋ね、被災地ベニ県のテント生活者への生活支援物資を贈呈しました。

注* これまで長かったエル・ニーニョ現象とは反対に、ペルー近海の海面温度が平年より低くなることで、長雨・豪雨などが発生する異常気象



AMDA 会員の募集

	年会費
医師会員	15,000円
一般会員	10,000円
学生会員	7,500円
法人会員	30,000円
賛助会員	2,000円

※医師・一般・学生・法人会員には、活動報告誌「AMDAジャーナル」を年4回、「AMDAダイジェスト (AMDAジャーナル号外)」を年2回、賛助会員には、「AMDAダイジェスト (AMDAジャーナル号外)」を年2回送付しています。

* 入会ご希望の方は、AMDA郵便払込取扱票の裏面をご覧ください、必要事項をご記入の上ご入会の手続きをお取りください。

ボランティア大募集

年齢や性別にかかわらず、事務局のお手伝いなどをしてくださるボランティアを幅広く募集しています。お気軽にお問合せください。

※ボランティアに関するお問合せ先：ボランティアセンター
TEL：086-284-7730 E-mail：member@amda.or.jp

AMDA「ERネットワーク日本」ご登録のご案内

より迅速な初動体制を確立するため、登録制度のAMDA「ERネットワーク日本」を整備しています。緊急救援活動派遣を希望される方は、ご登録ください。なお、ご登録者には、緊急救援初動の際にお声をおかけさせていただきますが、登録により、活動参加義務が発生することはありません。

※登録に関するお問合せ先：緊急救援センター
TEL：086-284-7830 E-mail：member@amda.or.jp

事務局便り ◇ 2008年1～3月の動き

<講演>

1/12	社会福祉法人吉備の里
1/21	岡山県立倉敷中央高等学校
1/22	高野山真言宗備中宗務支所
1/23	ふくやま国際交流協会「異文化理解講座」
1/24	国際医療貢献シンポジウム (岡山大学大学院医歯薬学総合研究科)
1/26	岡山校友会
1/31	岡山県立倉敷天城中学校
2/7	相生市職員労働組合連合会青年女性部
2/9	ピース☆フェスタ (倉敷市)
2/12	京都市小学校校長会 (京都市立小学校教務主任対象)
2/13	ふくやま国際交流協会「異文化理解講座」
2/15	赤磐市立赤坂中学校
2/18	岡山北西ロータリークラブ
2/20	岡山大学教育学部附属中学校
2/26	倉敷市立船穂小学校
3/5	倉敷市環境衛生協議会玉島地区協議会 「第32回山陽新聞桃太郎賞授賞」 表彰式における記念講演
3/16	インドネシア・ハサスディン大学への救急車贈呈 記念シンポジウム (岡山大学)
3/19	バイオニアネット異業種交流会 (倉敷市)
3/21	岡山トルコ文化センター15周年イベントウィーク
3/30	瀬戸大橋姉妹橋20周年特別講演会

<本部訪問>

1/7	岡山県立井原高等学校
1/19	ひろしまアジア塾 (平和貢献NGO sひろしま)
2/20-21	岡山大学教育学部附属中学校

<イベント>

1/26	第2回「高校生が参加する国際協力」(岡山市)
2/2-3	ワン・ワールド・フェスティバル (写真左下) (大阪国際交流センター)
2/7-10	ピース☆フェスタ (倉敷市)
3/7-9	第51回2008春洋蘭展 (総社市)
3/15	RSKチャリティーコンサート (岡山市) (写真中央)
3/22	第3回「高校生が参加する国際協力」(岡山市) (写真右下：ワークショップ「貿易ゲーム」)

保健ボランティアの役割とモチベーション

前号に引き続き、保健ボランティアの活動についてご紹介いたします。今回は、中南米のプロジェクトから、ホンジュラスとペルーの保健ボランティアの役割とその原動力についてお伝えできればと思います。

ホンジュラス



ミーティングに参加する保健ボランティアたち

ホンジュラスの中東部エルパライソ県3市における母子保健向上支援事業が始まって8カ月が経ちました。この間、伝統的助産師やコミュニティ薬局を運営するボランティアに対し研修が行われ、100人強の保健ボランティアが誕生しました。保健ボランティアには自ら志願した人、地域住民から推薦された人といいますが、みんなそれぞれが誇りをもって活動を行っています。彼らのその誇りの根源はどこにあるのでしょうか？ホンジュラス国民の大半は敬虔なカトリック教徒です。保健ボランティアたちと話をすると、必ず神への感謝の言葉が聞かれます。

「私たちの村にコミュニティ薬局が設置されることになったのは神様の

お導き。神様から与えられたこの貴重な機会に感謝するとともに、自分の保健ボランティアとしての使命を全うしたい。今後も保健衛生の知識をもっと身につけて、自分たちの村に貢献していきたい。」

このように神に対する誠実な誓いが彼らのボランティア活動の原動力となり、自分の村において責任のある役割を担っているという思いが誇りとなっているのです。（この活動は、JICA草の根技術協力事業として実施しています。）

ペルー

ペルーでは、首都リマ市の貧困地域であるカラパイヨ地区において、地域の人たちの力による母子の栄養改善を目指した活動を実施しています。この活動の柱となっているのが、住民の保健ボランティアです。ボランティアは、活動対象者と同じ立場（母親や若年の女性）の人たちです。地域の家々を回り、妊産婦、母親、乳幼児の栄養について伝えます。カラパイヨ地区には、乾燥した斜面に小さな家が立ち並んでいるのですが、各家を回って教育をするのはなかなか大変な仕事です。なぜ、無償でそ



保健ボランティアによる栄養教育

ういう活動をするのか。その質問に、ボランティアからはこんな回答が返ってきます。

「私たちのコミュニティは、色々な問題を抱えていて、支援を必要としています。自分にその機会と能力があれば、少しでもコミュニティのために何かしたいんです。そして、この活動を通じて、それが実現しています。」

「みんなが、栄養について関心を持ってきて、色々質問をしてくれま。そうやって、周りの人たちが新しい知識を身につけられて、自分のことを頼ってくれることに、やりがいを感じます。」

こうした気持ちが、地域の保健活動を支えているのです。（この活動は、味の素「食と健康」国際協力支援プログラムの支援を受けて実施しています。）

ザンビアスタディツアーのご案内

AMDA社会開発機構では、下記の要領でザンビアスタディツアーを実施します。詳細は5月中旬以降決定し、ホームページにてお知らせします。

<http://www.amda-minds.org>

資料の送付を希望される方は、下記までご遠慮なくお問い合わせください。

日程（予定）：2008年9月13日（土）～21日（日）8泊9日

場所：ルサカ市内の事業地ほか

内容：結核・エイズ対策事業見学

コミュニティ自立支援事業見学

リビングストーン国立公園視察等

費用：未定

その他：関西空港・成田空港発着を予定

往路のみ、関西空港～ルサカまで本部職員が同行する予定です



保健センターで結核治療と保健ボランティアの活動を紹介（2006年夏）

※AMDA会員資格で参加できます。どうぞお気軽にお問い合わせください。

問い合わせ先：

086-232-8815

（特活）AMDA社会開発機構

富岡洋子

賢者は歴史に学ぶ



AMDARは、多様性の共存を実現するために、如何なる統治機構が望ましいのか考えました。3つの基軸を想定しました。正統性、正当性そして調和性です。正統性とは存在の是非を問います。正当性とは正統性を証明する行為の是非です。調和性とは正統性に対する共鳴です。具体的には寛容、公正、ノブレス・オブリージュ（高貴な義務）の有無です。

AMDARの多様性の共存の理念に対する正統性は「相互扶助」、正当性は「AMDAR多国籍医師団」、調和性の具現化である寛容は「他の正統性との共存」、公正は「AMDAR執

行部の多様性」、ノブレス・オブリージュは「救える命があればどこへでも」のスローガンに代表されています。

「賢者は歴史に学ぶ」という格言は貴重な教訓です。AMDARの各国支部長は自国の歴史に卓越した見識と誇りを持っています。彼らこそ財産であり、AMDARの新基軸の源泉です。

AMDARのネットワークを支えていただいている関係者の方々に深く感謝するとともに、この公共的財産の活用にご指導をいただければ望外の喜びです。

2つの常任委員会の発足

AMDARインターナショナルに2つの常任委員会が発足します。2008年3月に発足したAMDAR-AMSA連携委員会と伝統医学委員会です。AMDAR-AMSA連携委員会の委員長にはイージョンミン韓国支部長が就任しました。日本、フィリピン、台湾、インドネシア、カンボジア支部などから積極的な動きが出ています。

1980年に設立されたAMSAのOBが1984年にAMDARを設立しました。

AMSAは15の国と地域の医学生が参加する団体に成長しています。世界平和実現に向けたAMDARとの協力が期待されます。

伝統医学委員会の委員長にはS.K.カマト・インド支部長が就任する予定です。世界の医療資源として、中医学、アユルベータ医学、ユナニー医学、チベット医学などの伝統医学が、現代医学とどのように協力し合えるのか。楽しみです。

写真上：イージョンミンAMDAR韓国支部長（左）と菅波AMDARグループ代表
写真下：AMSAメンバーと菅波AMDARグループ代表



「AMDARグループ代表者会議」開催

国連経済社会理事会から総合協議資格が与えられたAMDARグループを構成する5団体の長が、AMDARの総合指針について協議する「AMDARグループ代表者会議」が、3月26日、岡山市の本部にて開催されました。グループ代表に菅波茂、代表代行には、小林米幸、的野秀利の3氏が選出され、グループ内の更なる結束による国際平和への積極的貢献と、国連をはじめ国際機関と一層の連携強化を図る指針等を決議しました。

(写真左から) 鈴木俊介(特活)AMDAR社会開発機構理事長、菅波茂AMDARインターナショナル代表/ (特活)AMDAR理事長、小林米幸(特活)AMDAR国際医療情報センター理事長、的野秀利AMDAR国際福祉事業団(公設国際貢献大学校)理事長

